

研究課題名 コード密度値を用いた Histogram analysis による膵癌化学療法効果の予測に関する研究

## 研究

研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科放射線診断学 教授 栗井和夫

研究期間 2018年8月23日（倫理委員会承認後）～ 2024年3月 31日

## 対象者

倫理委員会承認日から 2023年 10月の間に、広島大学病院で下記の条件を満たす患者。

1. 本院における通常診療で施行されたCT検査のうち、以下の基準を満たす成人患者
2. 病理組織学的に膵腺管癌と診断された患者
3. 未治療膵癌を有し、かつ化学療法が施行される患者
4. 化学療法前後に dual energy CT による上腹部のダイナミック CT 検査が施行された患者

## 意義・目的

原発性膵癌は様々な治療に対する抵抗性を示す予後不良な悪性腫瘍です。原発性膵癌患者の約45%は初回の評価で切除不能もしくは切除境界可能と診断され、化学療法が選択されます。このため、原発性膵癌において化学療法に対する治療効果予測を行うことはその後の治療戦略において重要なポイントとなっています。Dual energy computed tomography (DECT)は、同一の対象を2つの異なるエネルギーをもつX線で撮影するCT撮影法であり、エネルギーごとの減弱係数の違いを利用することで、さまざまな定量解析や解析画像を得ることができます。このDECTを用いることで、組織に分布するヨード性造影剤をヨード密度値として正確に表すことが可能であり、原発性膵癌の複雑な組織所見をより正確に捉えることが期待されます。そこで今回我々は化学療法が施行される未治療膵癌を対象として、DECT画像を用いて膵癌に対する化学療法の治療効果を予測することを目的として本研究を立案しました。

現在岐阜大学を中心とする全国6病院において「ヨード密度値を用いた Histogram analysis」による

浜松医科大学

試料・情報の管理責任者

岐阜大学 助教 河合信之

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形

で公表された後、第三者に知られた場合には、ご迷惑をおかけするおそれがあります。ご了承ください。

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Tel : 082-257-5257

広島大学大学院医系科学研究科放射線診断学 職名 准教授 中村優子

研究機関：広島大学